

## ごあいさつ (事業の概況)

平素は変わらぬご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

本年も、当金庫の経営内容をご理解いただき、引き続き安心してお取引いただけますよう、ディスクロージャー誌「上越信用金庫の現況2014」を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

平成25年度の我が国経済は、24年末の政権交代以降、安倍内閣と日本銀行が推し進める大胆な金融政策と機動的な財政政策の効果により、景気は緩やかに回復し、過度な円高の是正による輸出環境の改善などを背景に設備投資についても、企業収益が改善するなかで持ち直しが明確になり、また、年度後半では、平成26年度からの消費税率の引き上げ前の駆け込み需要もみられ、大企業を中心に業績回復が継続しています。

しかし、引続き新興国・資源国経済の動向、欧州債務問題の今後の展開、米国経済の回復ペースなどには注意が必要であり、さらに消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動がリスク要因として挙げられています。

また、少子高齢化・人口減少社会が到来する中で、持続可能な社会保障制度への懸念など、構造的な課題を抱えており、安倍政権のもとで課題の解決に迅速に取り組むことが期待されているところです。

当金庫の取引先においては、円安によるエネルギー価格の高騰や原材料等の値上げが企業収益を圧迫しておりましたが、昨年12月の調査では景況感に回復がみられる状況となりました。

こうした状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高202,309百万円となり前年度期末比1,726百万円増となりました。科目別では、定期性預金が122,141百万円、要払性預金が80,168百万円、人格別では、個人預金が167,152百万円、法人等の預金が35,156百万円となりました。

貸出金は、期末残高76,647百万円となり前年度期末比509百万円増となりました。科目別では割引手形が1,152百万円、手形貸付が5,819百万円、証書貸付が63,892百万円、当座貸越が5,782百万円、人格別では、個人への貸出金が27,285百万円、法人等への貸出金が49,362百万円となりました。その結果、預貸率は37.88%となりました。

有価証券は期末残高80,003百万円となり、前年度期末比3,515百万円増となりました。

損益状況につきましては、業務純益403百万円、経常利益182百万円、当期純利益171百万円となりました。

当金庫は昨年第2次『しんぎん「つなぐ力」発揮2012』3ヵ年計画の第2年度目となり、この3ヵ年計画の基本方針である「永続性ある経営の確立」「課題解決型金融の強化」「独自性の更なる発揮」の下、中小企業の経営支援等を中心に、「地域にお役に立ち、地域に必要とされ、地域に愛されること」を目指してまいりました。

今後も、経営の最重要課題であるコンプライアンス態勢の強化・充実を図ると共に、コンサルタント機能を発揮できる能力の育成・強化や、行政、外部機関や専門家などとの連携を強化し、一層の支援体制の整備に努め、地域の持続的発展に貢献すべく役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

終わりに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を心からお祈り申しあげるとともに、一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

平成26年7月



理事長 笠原 和博